

■最モ仲ノヨキ夫婦ハ性質ノ異ナルモノニアリ

西京第二教会での新島の説教より。「類は友を呼ぶ」といえども、「真の朋友」を求めるためには立場の同じ者だけでなく、むしろ異なる者同士が交わりを持つべきである——。そのことを、夫婦になぞらえて述べたのがこの一節である。

夫婦喧嘩をはじめ、争いや衝突は、「私と相手は同じ思いを共有している」という思い込みから生じるのであろう。だからこそ「なぜ分かってくれないのか」という不満が爆発してしまう。

教職員と学生、生徒の間でも同じことが言える。「これが『正しい』と分かっているはずなのに、なぜ言う通りにできないのか」と、「大人」の側の価値観を相手に押し付けている場合もあるように思う。

新島は「我が校の門をくぐりたる者は、少々角あるも可、奇骨あるも可」「個儻不羈なる書生を圧束せず」などの言葉を残した。私たちがうっかりすると、「角あり、奇骨ある」生徒を、「間違っている」と決めつけて矯めてしまっているのではないか。自戒を込めて振り返る。

新島裏という人は、「みんなちがってみんないい」を、家庭でも学校でも大切にしていたのだろう。私も今日家に帰ったら、「私とは違う、家人の洗濯物の畳み方」を受け入れるところから始めてみようか。

■ Doshisha college song Words by W. M. Vories Music by Carl Wilhelm

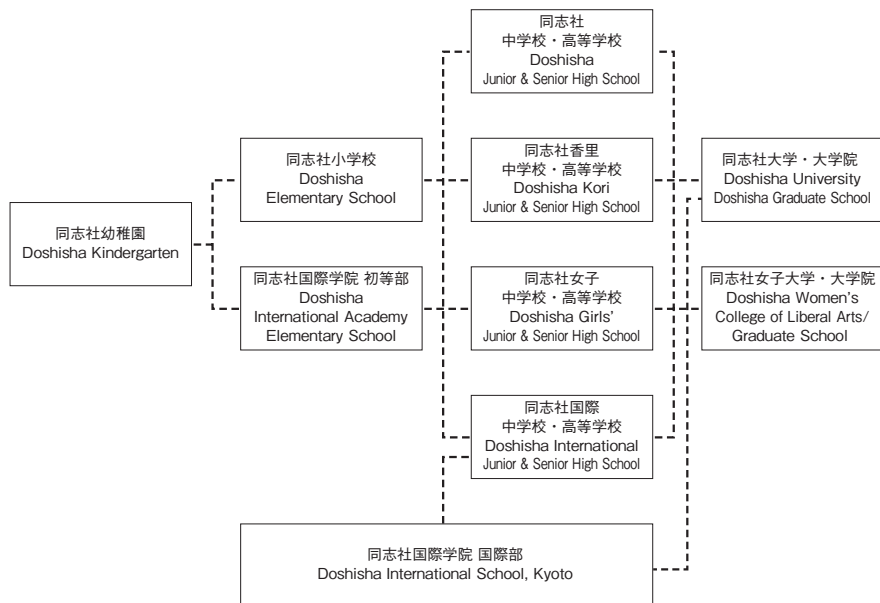
One purpose, Doshisha, thy name
 Doth signify; one lofty aim:
 To train thy sons in heart and hand
 To live for God and Native Land.
 Dear Alma Mater, sons of thine
 Shall be as branches to the vine;
 Tho' through the world
 we wander far and wide,
 Still in our hearts thy precepts shall abide!

同志社よ、その名は一つの目的を意味する。
 その学徒の精神的、肉体的、
 神のため、祖国のため、生きんという
 一つの崇高な目的を。
 親愛なる母校よ、同志社の学徒は、
 ぶどうの枝のごとくつながりゆくことであろう。
 たとえ、世界くまなく、広くはるかに、
 われらさまようと、汝の教訓は、
 われわれの心に永遠に生き続けるであろう。

(訳：児玉 実英)

■ 同志社の一貫教育体制

The Integrated Educational System of the Doshisha



* 一定の条件があります (帰国生の要件)